

## 戦争と国家、そしてナショナリズム

福田 宏

hfukuda@juris.hokudai.ac.jp

(法学部 321 号室・706-3784)

(相談時間： 木曜 15 時～17 時)

### I. 授業のねらい

- ・「新しい戦争」について考える  
イラク、イスラエルとパレスチナ、ユーゴ紛争を中心に
- ・本を読み、文章を書くこと —— 3 回のレポート  
(1) 5/14、(2) 6/18 (授業時間中)、(3) 7/30 (期末レポート)

### II. 主要な論点

- ・情報操作とメディア  
大量破壊兵器は存在したのか？ —— 「戦争の大儀」の不在  
いとも簡単なメディア操作 —— ユーゴ紛争でのケース
- ・原理主義とテロ  
「テロリスト」はレッテルにすぎない —— 定義の難しさ  
イスラーム原理主義は実在するのか？ —— 問題のある用語法
- ・ナショナリズムとは？  
ネイションとは —— 想像された共同体？ 近代の産物？  
ネイションの要素 —— 言語、宗教、人種、、
- ・そして日本は何をすべきなのか？  
自衛隊のイラク派遣は「国益」になるのか？  
個人としてできること、できないこと

### III. 授業の予定

#### アメリカ vs ヨーロッパ

- 4/23(2) ロバート・ケーガン著、山岡洋一訳 『ネオコンの論理 ——  
アメリカ新保守主義の世界戦略』光文社、2003。【コピーを配布】
- 4/30(3) ツヴェタン・トドロフ著、大谷尚文訳 『イラク戦争と明日の世界』  
法政大学出版局、2004。【コピーを配布】

\*5/7(4) 映画《ノー・マンズ・ランド》 2001 年、98 分。

ユーゴ紛争を描いた傑作。(出席義務なし)

### パレスチナとイスラエル

5/14(5) シオニズムとイスラエル —— ホロコーストの後に

5/21(6) パレスチナ問題 —— 継続する暴力の連鎖

### 情報操作とメディア

5/28(7) 戦争と情報操作について

\*6/4 大学祭のため休講

6/11(8) メディアの功罪 —— 戦争報道について考える

6/18(9) 2回目レポート(授業時間内に行う)

### ユーゴ紛争

6/25(10) 問題の所在 —— 何が起きたのか?

7/2(11) アメリカのPR会社とムスリム勢力の結合 —— セルビアの失敗

### ナショナリズムとは?

7/9(12) ネイションの由来 —— 近代化の中で

7/16(13) ナショナリズムのでき方 —— 東ヨーロッパを例に

7/23(14) 冷戦後のナショナリズム —— 対処の方法は存在するか?

\*7/30(15) 予備日 最終レポート締切(2000~4000字)

\*8月上旬 定期試験中に最終レポートに関する面接(一人10分程度)

## IV. 1回目レポートの指定文献(以下の中から一冊を選択。2000字程度)

- ・酒井啓子『イラク 戦争と占領』岩波新書(新赤 871), 2004.
- ・池内恵『現代アラブの社会思想—終末論とイスラーム主義』講談社現代新書(1588), 2002.
- ・桜井啓子『日本のムスリム社会』ちくま新書(420), 2003.
  
- ・門奈直樹『現代の戦争報道』岩波新書(新赤 881), 2004.
- ・高木徹『ドキュメント戦争広告代理店 — 情報操作とボスニア紛争』講談社, 2002.
  
- ・立山良司『揺れるユダヤ人国家 — ポスト・シオニズム』文春新書(87), 2000.
- ・芝生瑞和『パレスチナ』文春新書(370), 2004.
  
- ・藤原帰一『デモクラシーの帝国—アメリカ・戦争・現代世界』岩波新書(新赤 802), 2002.
  
- ・中村好寿『軍事革命(RMA) — <情報>が戦争を変える』中公新書(1601), 2001.
- ・加藤朗『テロ — 現代暴力論』中公新書(1639), 2002.
- ・加藤尚武『戦争倫理学』ちくま新書(382), 2003.

## V. 情報源としての図書館、本屋、古本屋、インターネット